

動物実験等の実施状況
（令和5年度）

千葉県畜産総合研究センター

1. 動物実験等の実施件数等					実施件数合計 11 件			
小哺乳類			大哺乳類			鳥類		
動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数
マウス			ウシ	7	103	ニワトリ	2	536
ラット			ブタ	2	29	ウズラ		
ハムスター			ヤギ			アヒル		
モルモット			ヒツジ			カラス		
ウサギ			イヌ					
			ネコ					
			サル					
			イノシシ					
			タヌキ					
						爬虫類		
						動物種	件数	飼養数
2. 動物実験の主な内容								
令和5年度に実施した動物実験の主要な目的および実験方法は次のとおり。								
(1) 乳用牛の飼養試験（3件）								
イネ WCS や低品質粗飼料など、給与する飼料の違いが乳用牛の飼料摂取量や乳量、第一胃内容液性状、血液成分等へ及ぼす影響を調べるため、第一胃内容液および血液を採取した。								
なお、胃液および血液の採取は、熟練した技術者により短時間で行った。								
(2) 肉用牛の飼養試験（2件）								
粗飼料と濃厚飼料の給与割合の違いや、サイレージなど給与飼料の違いが、肉用牛の発育、肉質、第一胃内容液性状、血液成分等へ及ぼす影響を調べるため、第一胃内容液および血液を採取した。								
なお、胃液および血液の採取は、熟練した技術者により短時間で行った。								
(3) 乳用牛の繁殖に関する試験（2件）								
乳用種未經産牛の繁殖成績を改善するためのホルモン製剤投与試験や、乳用種未經産牛での採卵処置がその後の受精卵生産効率に及ぼす影響を検証するため、受胎成績や採卵成績と併せて、血液成分への影響を調査した。								
なお、ホルモン製剤の投与、採卵および血液の採取は、熟練した技術者により短時間で行った。								

(4) 豚の飼養試験 (2 件)

母豚のストレス緩和や、夏季の生産性向上を目的に、トリプトファンやアスタキサンチンなどの飼料添加物の給与等を行い、ストレスの指標とされる血中コルチゾール濃度を調べるため、血液を採取した。

なお、血液採取は、熟練した技術者により短時間で行った。

(5) 採卵鶏の飼養試験 (2 件)

採卵鶏をアニマルウェルフェアに対応したケージで飼養し、ストレスの指標とされる血中コルチゾール濃度を調べるため、血液を採取した。

また、産卵後期の生産性向上を目的に、リゾープス菌麴エキスを給与し、その効果を確認するため、血中カルシウム濃度と肝臓脂肪蓄積量を測定した。

なお、血液採取は、熟練した技術者により短時間で行った。また、肝臓の採取は炭酸ガスを用いて速やかに廃鶏処理した後に行った。

備考1 ○○の箇所には和暦を記載すること。

2 「1. 動物実験等の実施件数等」の欄は、報告する年度における動物実験等の実施件数の総数、動物種（上記に表示のない動物種による動物実験等を実施している場合は、当該動物種名を新たに記載すること。）ごとの件数及び飼養数について記載すること。

3 「2. 動物実験の主な内容」の欄は、報告する年度において実施した主要な動物実験の目的や実験方法等の内容について簡潔に記載すること。